

今日の聖書のことば

1 月17日(日) レビ 6章

ささげ物には目的に応じて、異なったささげ物が要求されました。一つはその身代わりとしての屠り、罪の赦しを得ることのため、それを食べて自分のもととすることです。新約時代の私たちもこの両者の体験が必要です。

1 月18日(月) レビ 7章

和解のささげ物について、脂肪は焼いて主に献げるが、胸肉ともも肉は祭司のものとなり、残りが献げた人のものとなる。このように主と祭司と献げた者がともに喜ぶ。ささげ物をするとは、罪の赦しだけでなく、恵みを分かち合う意義もありました。

1 月19日(火) レビ 8章

ここには祭司の任職式の有様が描かれている。これは出エジプト40章で主が行えと命じられたことです。聖別と献身のことが主に記されている。まず罪が赦され、この身をおささげし、主のみ言葉に従う者として聖別されるべきなのです。

1 月20日(水) レビ 9章

任職式の後の、アロンとその子らが祭司としての最初の務めを行ったことが書かれています。まず自分たちのために罪の清めのささげ物をする事、そしてイスラエルの民のために罪の清めのささげ物をする事。そしてアロンは両手を挙げ祝福をした

1 月21日(木) レビ 10章

祭司の務めを成した直後、アロンの二人の子らが起こした、厚顔無恥な行動に対して、彼らの罪は冒瀆の罪に当たり、神の罰は厳しかった。祭司にとって大切なことは、自分の使命を忘れず、どんな時でも主の言葉に従うことです。

1 月22日(金) レビ 11章

汚れについての律法です。この章では食べてはならないもの、触れてはならないものが教えられている。このような儀式的清さの保持は、聖なる神の民にとっては必要なことであった。罪赦されても汚れたものに近づくなら再び罪を犯す可能性は高い

1 月23日(土) レビ 12章

汚れに関する律法で、ここでは出産について。子どもの誕生は喜ばしいことですが、また厳粛な事実です。律法によれば親になることに関連のあるすべては汚れとして扱われ、その人の宗教的義務と遂行を差し止めるものとして扱われている。

ろば No. 2002

2021年 1月 17日
日本バプテスト立川キリスト教会
牧師 大川 博之

マタイ 11:27

すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかには子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。

「言うておく、裁きの日には、ソドムの地の方が、お前よりもまだ軽い罰で済むのである」(マタイ 11:24)と言われる厳しい言葉を受けたイスラエルを、私たちはどのように聞くのでしょうか。

ツロ、シドン、ソドムは、長年にわたって、邪悪であるという評価を受けてきました。それぞれ、その邪悪さのため、神によって滅ぼされました。ペツサイダ、コラジン、カペナウムの人々は直接イエスを見ましたが、それにもかかわらず、罪を悔い改めることやイエスを信じることをかたくなに拒みました。もしこの世で最も邪悪な町がイエスと会っていたら、彼らは悔い改めたであろうかとイエスは言われます。ペツサイダ、コラジン、カペナウムはイエスを見たのに信じなかったため、イエスを見なかった邪悪な町々よりもさらにもっと大きな罰を受けると言われます(マタイ 11:20-24)。同様に、至る所に教会があり、すべての家に聖書がある国や町も、もし悔い改めず信じないなら、さばきの日に言い訳ができないだろうと言われるのです。

ここで主は「その時」と言われます。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。」と言われました。そこに私たちは何を聞くのかと言うことです。滅ぼされた町々には一つの共通した要因があります。パウロはコリント人への手紙でイザヤの言葉を引用して『わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、／賢い者の賢さを意味のないものにする。』知恵のある人はどこにいる。学者はどこにいる。この世の論客はどこにいる。神は世の知恵を愚かなものにされたではないか(コリント 1:19) と言いました。そこで主は言われるのです。賢い者はどこにいるのか。イエスは「これらの

ことを知恵ある者や賢い者に隠して、幼子のような者にお示しになりました」と言われるのでした。

賢いと思っている者を、主は滅ぼされました。実にそれは爽快でした。賢いと言うことについて、彼らには大きな誤解があったと言うことです。私は幾人かのキリスト教を排斥しようとして研究を進め、ミイラ取りがミイラになったお話を聞かせていただいたことがあります。確かに私たちは知恵に優れています。おそらく私たちの知恵はもっと深められて思いも及ばない方向へと進んで行くであろうと想像することが出来ます。地動説が公になって以来、人間は恐れるものはないと思ひ込んで我が道を進んできました。その結果が今日の地球規模の混乱で、その終始を見極めることは出来ないうえです。私たちの最も大きな罪は、賢いと思っていることです。最初の人アダムがそうでした。蛇にそそのかされて罪を犯しました。その結果、彼は知恵を得ました。その結果彼は楽園から追放されました。知恵を得ることは、人が人として確立される大切な要素かも知れませんが、それで創造者を横に置くなどのもつてのほかです。私たちはあくまでも被造物です。「たいせつなきみ」という絵本があります。小さな木の人形がとこの木の人形を作った木こりと心温まる物語ですが、私たちは創造者である神さまに、どのような場所にあっても、どのような時でもしっかり守られ、支えられていることを忘れてならないのです。

イエスは言われるのです。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」と言われるのです。感謝。

・・・・・・・・・・＜ 聖書の学び・祈禱会 ＞・・・・・・・・・・

イエスの望み

マタイ 8 : 1-17

1. 始めに聖書を読もう。

マタイ 8 : 1-17

聖書教育 32-33頁を読む。

2. 聖書から教えられたことを書き留める。

3. み言葉を味わおう

イエスが山上の説教を語られ山を下りられると、大勢の群衆がイエスに従いました。イエスは山上の説教を通して、主の権威を教えられましたが、山を下りてこられたイエスはそこで、対照的に奇跡の行動を通して主の権威を表されたことを私たちは見せていただくのです。ここで見せていただいた奇跡はすべて癒やしの奇跡です。

重い皮膚病を患っている人、百人隊長のしもべ、ペテロの姑の三人です。そしてそれぞれ癒やされた人々はみな違う立場にありました。最初の病人はユダヤ人で、主は彼に触って癒やされました。次の例は異邦人で、主の命令で癒やされ、ユダヤ人にまさる信仰が証しされています。最後の例は、安息日の出来事であったことがしきされています。彼らは当時の社会の中で軽んじられ排除されていた人たちです。しかしイエスは誰に対しても誠実にひとりの人格として向き合っておられます。

山上の説教にしろ、奇跡にしろ、それらを同じように見聞きしても、人によって全く違った応答が返ってきます。主の権威を受け入れて苦難を覚悟して従ってくる者もいれば、それを拒否して主を追い出そうとする人もいます。昔も今も変わりません。天の御国の民は、主の権威を認め、困難を覚悟して従っていく者です。

＜祈り＞

主よ。どのような困難が襲ってきても、しっかりとみ言葉を受け止めて生きる勇気を与えてください。主の栄光の中においてください。

4. 「み言葉を味わおう」から教えられたことを書き留めよう。